

そとくみゅう

「西和賀の人と自然と環境を守り育てる豊かな里づくり」

西和賀エコミュージアム事業だより

平成十八年八月二十五日発行

第五号

西和賀エコミュージアム

事業推進連絡会

西和賀の自然や景観、文化財や史跡地域に伝わる伝統技術などを活かしながら活動している方や、これから取り組みたいと考えている方による「西和賀エコミュージアム事業推進連絡会」を六月に設置し、すでに第一回、第二回目の会議を開催しており、九月に第三回目の会議を予定しています。(年度内に五回開催予定)

皆で集まって、自由に情報交換をしながら相互の連携や行政が行う活動への意見、提言を行ないながらエコミュージアム活動を活性化させていくものです。

「西和賀町で何かやりたい」という意欲のある方なら、個人・団体・民間企業などに関わらず、どなたでも参加できる連絡会です。現在は十四団体が参加しています。

エコミュージアム講演会

六月二十八日(水)西和賀町役場沢尻庁舎で若手大学農学部教授の廣田純一先生をお迎えして演題を「地域づくりと地元学」としてお話をいただきます。(以下に講演内容を記載します。)

地域づくりとは何か

地域住民が共通の目標(課題)を協働で達成する力(実践力)を高めること。あるいは、実践力の高い地域を創り上げることで、実践力は実践でしか身に付きません(地域づくりは実践を通じてしか達成されない)。



地域づくりの方法

実践力をどうやって高めるか。それは地域住民が地域の現状を知る(意識化)ことであり、課題を知る(課題化)動機付けをすることです。そして、具体的(成果がわかりやすい)、多くの人が関わることができ、地域の改善につながるような目標を設定します。

最初に活動のための組織を作りますが、できるだけ多様な人の参加による組織とし、連絡調整のための事務局を設け、そして自治組織等との関係に留意しながら必要な体制づくりをします。実践にあたっては多くの人が参加できる機会を作り、活動する人だけで走りすぎることのないように又、話し合いや作業のすすめ方を工夫(ワークショップ等)することが必要です。運営の基本方針の徹底に努めながら実践に取り組みます。

地元学から地域づくり(実践)へ

地元学は地域を見直し(当事者意識の醸成)、地域づくりのテーマ(目標)を探しのため、そして既に活動テーマ(目標)が決まっている場合は意識啓発・連帯感醸成のために行なうものです。

地元学から実践テーマを引き出す方法では、地元の人が行う地元学に専門家(外部の人間)に参加(指導)してもらい、アドバイスをもらうこと。また地域のリーダー・有志そして地域の皆で考え、話し合いによって実践テーマを考えます。

以上のようなお話しと平成十三年度に左草地区で実施された地元学の様子について、写真等をスクリーンに写し出しながら説明がありました。廣田先生が指導されている県内の活発な地元学の事例についても事細かな説明がありました。

会場は、これから地元学を実施しようとする地域の方々等約三十名の参加者が地域づくりの手法である「地元学」について熱心に講演を聞きましました。

地元学実施(新町区・泉沢区)

今年度西和賀町では、泉沢・弁天・猿橋・新町の各行政区で地元学を行います。実施にあたっては、廣田教授が代表理事となっている「特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター」に協力いただきながら事業を進めており、すでに新町区・泉沢区で実施しました。

新町区では七月三日(日)に四九名の参加者による地元学を実施しました。午前中の地域をまわってお宝をさが



す野外作業は残念ながら雨の中となりましたが、傘をさしながら五班に分かれて「お宝さがし」をしました。午後は公民館で班ごとに昼食をとつ

その後、室内作業として午前中にみつけて写真を撮ってきたお宝を一件一件にカードにまとめる作業をし、最後に全体で発表会を行ない、終了しました。
 泉沢地区の地元字は七百十六日(日)三十五名の参加者で実施しました。



泉沢地区では日ごろから地域の婦人グループである「泉沢生活研究グループ」の活動が活発であり、当日の昼食は食事班としておにぎりの他に「よもぎ餅」や地域に伝わる様々な「山菜の煮付け」、「みず料理」などを作っていました。これも「地域のお宝」としてとりまとめることができ、参加者とても楽しい昼食をとることができました。みなさん大変ご苦労さまでした。



地元字の資源カードの冊子

今まで地元字を実施した地区ごとに「地元字資源カード」をまとめた冊子を作成し、地元の公民館に設置しましたので、地域活動等に活用していただきたいと思えます。尚、役場企画課にも全地区の冊子を保管しておりますので「ご覧になりたい方はご利用ください。」



エコミュージアム・プレツアー

七月三〇日(日)に町内の美しい滝と自然に触れてもらおうと「真昼山系大自然の滝めぐり」と題して、参加を呼びかけたところ、盛岡市・奥州市・一関市・北上市そして西和賀町の方々からの参加希望があり、スタッフあわせて総勢十九名でエコミュージアム事業の活動を知っていただくプレツアーを実施しました。

自然豊かな真昼山系にはこれまで、十三近い美しい滝が確認されています。今回はそのうちの「真昼霊泉」、「天空の滝」そして「真昼大滝」など八箇

所の滝をまわる計画で、案内人は沢内パーデンの藤田支配人をお願いし、当日参加者は九時に沢内パーデン前に集合し出発式を行い、マイクロバスに乗り三〇分ほどで真昼山系の山懐に到着しました。



前日までの雨により増水した川を渡り山登りをしながら、対岸にみえる様々な滝を眺めて進み、昼食は真昼天滝の前でイオンシャワーを体いっぱい



あびながら、自然の中でおいしい昼食をとりました。

午後はバスに乗り、さらに峰越林道を小松倉沢沿いに進んでいくと右手眼下にさらさらと水の音の静かな滝がみえました。これは「きぬずれの滝」と呼ばれ、まだ染めない白地の衣が摺り合うが如くみえたのでそうよばれているという美しい滝の姿でした。
 汗を流し、山を登り川を渡って眺めた数々の滝の美しさをきつと忘れられないことでしょう。

西和賀の自然と文化の小冊子

西和賀の自然と文化の小冊子の発行
 西和賀エコミュージアム事業では、「西和賀の自然と文化シリーズ」として毎年、小冊子を発行していく計画のなかで今年度は第三弾として「西和賀の生活道具」について小冊子を発行する予定であります。



* 連絡先

西和賀町役場 湯田庁舎
 企画課 八二 三三 八四